

■ 県立松橋西支援学校 ■

1 PLAN（平成30年度新体カテストの結果による取組の計画）

- (1) 平成30年度の生徒の体力についての現状と課題（高等部・上益城分教室）
- ア 男子の50m走において昨年度からの伸びが見られ、女子の長座体前屈、立ち幅跳びは横ばいであったが、他の種目では男女ともに前年度を下回る結果となった。
 - イ 全身持久力をベースに瞬発力や敏捷性などバランスよく体力をつける必要がある。
- (2) 児童生徒の実態から見えた課題（小学部・中学部）
- ア 運動量の確保が十分ではなく、運動の習慣や好き嫌いについて二極化の傾向が見られる。
 - イ 運動を行う時間の確保及び児童生徒が意欲的に運動に親しむための取組の工夫が必要である。
- (3) 平成30年度取組の計画

**できた喜びを味わえる体育授業の充実と運動や遊びの日常化の推進
～運動量の確保と日常の運動・遊びの奨励の工夫～**

- ア 体育（保健体育）授業の充実では、できた喜びを味わうことができる内容の工夫と運動量の確保を図る。
- イ 児童生徒が自ら運動を行う環境を整え、運動の日常化・習慣化を図る。
- ウ 運動の必要性を学んだり、様々な活動で運動に親しむ時間を設定したりするなど、その他の体育的活動の充実を図る。

2 DO（平成30年度の具体的実践）

- (1) 体育（保健体育）授業の充実
- ア 授業中の運動時間を計測し、体を動かす活動時間が全体の60%以上となるように授業を設定した。
 - イ 毎日の持久走では、ポイント制（1位5ポイント＋走った周数）として、ランキング形式とした。（中学部）
 - ウ バトンを使ったリレー方式のインターバル走を行った。（中学部）
- (2) 運動の日常化・習慣化
- ア 授業前のランニングを奨励した。（高等部）
 - イ 毎日の昼の放送では、運動場で体を動かすように呼びかけを行った。
 - ウ 運動場に「けんば遊び」コーナーを設置し、休み時間に活用した。（小学部）
- (3) その他の体育的活動
- ア 保健室と連携し、体重増加の生徒に対して、運動習慣や食事の取り方等について、指導を行った。[肥満対策グループ指導 通称：スマートナビ（高等部）]
 - イ 総合的な学習の時間にニュースポーツの体験を行ったり、生活単元学習の時間に「タグゲーム（鬼ごっこ）」を行ったりした。
 - ウ 上益城分教室では、希望者に対して週3回放課後にバドミントンの時間を設けた。

男子		前回
1	■■■■君	67ポイント ー①
2	■■■■君	54ポイント ー②
3	■■■■君	48ポイント △⑤
4	■■■■君	46ポイント ▼③
5	■■■■君	36ポイント △⑥
女子		
1	■■■■さん	57ポイント △③
2	■■■■さん	49ポイント ー②
3	■■■■さん	46ポイント ▼①
4	■■■■さん	36ポイント ー④

3 CHECK(平成30年度の取組の評価)

(1) 体育(保健体育)授業の充実

ア 単元導入時などは聞く活動が多く、60%をクリアできないこともあったが、導入以外の時間の授業では、体を動かす活動時間を60%以上確保することができた。

例：授業導入…5分、準備運動…5分、活動の説明…5分、活動①活動②…30分、まとめ…5分

(50分授業) (運動時間35分/全体の70%)

イ 持久走大会では、トップでゴールした生徒より、日々獲得したポイントで当日2位だった生徒が総合優勝をした。日々の積み重ねの大切さを伝えることができた。

ウ リレー方式のインターバル走では、自分の順番や走る距離など見通しをもちやすく走ることへの意欲も高まった。

(2) 運動の日常化・習慣化

ア 毎日、朝の体育の前に授業前ランニング(希望者)を行ったことで、長距離走に取り組む時間を確保することができ、習慣化することができた。

イ 放送委員会の昼の放送で運動の呼びかけを行ったことにより、昼休みに運動を行う意識付けの一因になった。

ウ 運動場に「けんぱ遊び」コーナーを設置したことで、昼休みやブランコを待つ時間に自然とけんぱ遊びを行う児童の様子が見られた。

(3) その他の体育的活動

ア 毎週金曜日14:20より保健室にて定期的に学習を行ったことで、参加者の体重増加が緩やかになってきた。

イ 総合的な学習の時間に「ふらばーるバレー」や「野球盤 ティーボール」などの体験、近隣の体育施設利用についての校外学習及び外部講師の活用などを取り入れたことで、楽しく運動に親しむことを経験することができた。

ウ 生活単元学習で「タグゲーム(鬼ごっこ)」を経験したことで、体を動かす楽しさを味わうことができた。また、ルールを理解や友達とのコミュニケーションの活性化にも繋がった。

エ 上益城分教室では、全生徒の3分の1以上が放課後のバドミントンに参加し、運動時間を増やすことができた。

授業前ランニング



けんぱ遊び



ふらばーるバレー



タグゲームの様子



4 ACTION(平成31年度の計画)

「運動量の確保」、「できた喜びを味わうことを意識した授業づくり」及びランニング形式など「評価の仕方」を工夫したことで、児童生徒の運動を行う時間の増加に繋がった。一方、児童生徒の体重の増加や運動をする児童生徒としない児童生徒の二極化の傾向を見ると、さらなる運動量の確保や習慣化の必要性を感じる。

今後も授業の充実を図り、体を動かす環境や機会を整え、働きかけを工夫しながら、主体的・継続的に体力を高め、運動に親しもうとする児童生徒の育成を進めていきたい。